



## 2021年12月

# 血液病センター 盛 暁生副院長 第63回アメリカ血液学会にて発表



Helping hematologists conquer blood diseases worldwide

About ASH

ASH Foundation



Log in or create an account



RESEARCH

EDUCATION

ADVOCACY

CAREERS

MEETINGS

PUBLICATIONS

AWARDS

NEWSROOM

愛育病院・血液病センターの盛 暁生と申します。この度、近藤 健・血液病センター長のご指導のもとにまとめた、『性染色体欠失は CBF 白血病の発症に関与しており、その治りやすさにも関与する』という研究を、第63回アメリカ血液学会で発表させて頂きました。

アメリカ血液学会は、血液学の分野で世界で最も権威のある学会です。今年は12月11日から4日間、ジョージア州アトランタで開催されました。この学会では、世界中から医師、研究者が集い、血液学に関する研究の中から選ばれた、世界の最先端、最高峰の研究のみ発表することを許されています。これらの研究は、医学、医療を進歩させ、やがて皆様の日常の診療に役立つこととなります。

私は、北海道大学・血液内科との共同研究として、ある型の白血病の発症に関与する染色体の異常を特定することができました。更に、この染色体異常は白血病の治りやすさにも関与しておりました。現在はこの発表に対して、世界中の医師や研究者の皆様からの反響を頂いているところです。今後は、白血病の発症に関して更に基礎研究が進んで行くことが期待されますし、白血病を治すための治療戦略にも大いに恩恵をもたらすと思われます。

## Acknowledgements



愛育病院・血液病センター  
総力を挙げて取り組みました

### Aiiku Hospital Blood disorders center

- Toru Miyajima
- Emi Yokoyama
- Reiki Ogasawara
- Koh Izumiya
- Makoto Saito
- Shihori Tsukamoto
- Takashi Ishio
- Hajime Senjo
- Shinpei Harada
- Yuko Fujimaki
- Akemi Murayama
- Kanayo Sasamori
- Masanobu Morioka
- Takeshi Kondo

### Hokkaido University

Department of Hematology  
Masahiro Onozawa, Daisuke Hidaka  
Shota Yokoyama, Takanori Teshima



### Hokkaido University Hospital

Laboratory and Transfusion Medicine  
Shinichi Fujisawa, Kaori Sato, Satoshi Otsu



Akio Mori et al. Non-age-related neoplastic loss of sex chromosome correlated to prolonged survival in CBF-AML patients in real-world clinical setting. 63<sup>rd</sup> ASH Annual meeting; December 2021; Atlanta, GA

Correspondence to Akio Mori

今年は新型コロナウイルスの影響で、現地には参らずにオンラインでの発表となりましたが、この研究は既に論文として英文医学誌にも掲載されております (International Journal of Hematology, 2021年11月号)。

これらの研究は、血液病センターの全員の医師、看護師はもちろん、事務職員を含めた愛育病院職員皆のおかげでなし得ることが出来ました。これからも、愛育病院を受診されている患者の皆様、ご家族の皆様のご期待に添うことができるように、職員一同、日々努力を重ねて、毎日の診療に全力で取り組んで参ります。そして、皆様が一日でも早く健康を取り戻せることを祈っております。一緒に頑張っていきましょう。

2022年1月 愛育病院副院長 盛 暁生